

## 第2学年 国語科学習指導案

日 時 平成20年 10月8日(水) 6校時  
児 童 男子10名 女子6名 計16名  
指導者 松田 和枝

- 1 単元名 だいじなところに気をつけて読もう  
教材名 「サンゴの海の生きものたち」(説明文)(光村図書 2年上)

### 2 単元について

#### (1) 能力について

第1・2学年の「読むこと」の目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」である。これを受けて、本単元では、「時間的な順序、事柄の順序などについて考えながら内容の大体を読むこと」(読イ)及び「語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読むこと」(読エ)が学習内容の中心となる。

#### (2) 児童について

児童は、1学期に説明文「たんぼぼのちえ」で時間の順序や理由づけを示す言葉に着目し、その役割に気付くという学習をしている。また、「ちえ」と「わけ」を見分け、整理して書くという学習もしている。

今年4月に実施した市標準学力調査の結果を見ると、説明文の内容の読み取りの正答率は、87.5%であり、(期待正答率76.7%)期待値を越えている。しかし、正答率が50%に達しない児童もいたので、音読や言語スキルをくり返し行っている。言葉や語尾に気をつけて音読させ、書いてある事柄を正しく読み取る力を育てていきたい。

#### (3) 教材について

「たんぼぼのちえ」が時間の流れの順序で説明されていたのに対し、本教材は、「具体例1」「具体例2」と並列の関係で説明されている。

本教材は、児童の日常から離れた世界のことはあるが、自然界の未知な部分に触れ、驚きや感動を覚え、新しい世界への興味をかき立ててくれる教材である。ただし、これまで読んできた説明文に比べ、説明がやや複雑になってきている。また、説明に登場する生き物の数が多くなっていて、生き物相互の関係もやや入り組んでいる。

文章構成は、おおまかに「はじめ」「中1」「中2」「おわり」となっており、文章全体への問いかけや、文章全体のまとめもある。

#### (4) 指導にあたって

本教材は「共生」という内容的にやや難しい要素を含んでいる。「はじめ」の部分、第一段落の「たがいに、やくにたつようにかかわり合って」という記述に着目させることで、生き物とその関係性が理解できるものと思われる。本教材では、以下の点に留意して学習を進めていきたい。

第一次では、サンゴの海の写真やスイミーの挿絵を見ながら、そこに住んでいる生き物たちの

イメージをふくらませ、興味・関心をもたせるようにしたい。また、言葉の意味をしっかりと理解させておきたい。

第二次では、教科書の写真を手がかりにして、生き物の特徴や様子、かかわり合いについて正しく読み取らせたい。文末表現や接続語のヒントカードを手がかりにしながら、重要な語句や文に注意してサイドラインを引かせたり、視写をさせたりしながら、主体的に読み取る方法を身に付けさせていきたい。

第三次では、練習教材「ありとすみれ」を用いて、自分で内容を正しく読み取る力を身に付けさせたい。

第四次では、「生きものカード」を作ることを活動のめあてとして意欲付けを図りながら、自分で興味をもって調べ読みができるように、関連図書を準備しておきたい。

### 3 単元の目標と評価規準

#### (1) 単元の目標

- ◎ 海の生き物たちがどのようにかかわり合っているかを読み取り、共生の仕組みの不思議に興味を持つ。
- いろいろな生き物についてしらべ、生き物カードを作る。

#### (2) 評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>・海の生き物に興味をもって読み、気付いたことを発表している。</li> <li>・海の生き物について書かれてある本を進んで読んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室などの本を読んで、「生きものカード」を作ることができる。(書イ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サンゴの海の生きものたちが互いに役立っていることを、叙述に即して正しく読んでいる。(読イ)</li> <li>・語や文のまとまりや内容について考えながら音読している。(読エ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・片仮名を正しく読んだり書いたりし、片仮名で書く語を文や文章の中で使うことができる。(言イ (ア))</li> </ul>

### 4 単元の指導計画 (12時間)

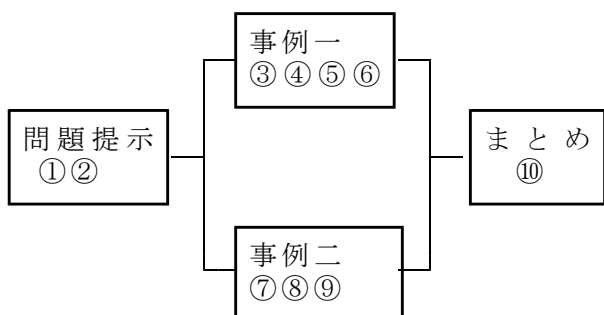
サンゴの海の生きものたち				
過程	時	学習活動	指導事項・留意点	評価規準
第 一 次	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○写真を見て、サンゴの海の中のイメージをもち、感想を書いて発表する。</li> <li>○学習のめあてを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海の中の拡大写真を用意し、黒板に掲示する。</li> <li>・「かかわり合い」という言葉の意味を確認する。</li> <li>・読み取ったことをまとめて、「生きものカード」を作ることを知らせる。</li> </ul>	<p>【関】全文を読み、初めて知ったことや不思議に思ったことなど感想を書いている。</p>

	2	○音読の練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意味のわからない言葉を調べさせる</li> <li>・漢字・カタカナの練習をさせる。</li> <li>・語や文のまとまりに気をつけて音読させる。</li> </ul>	【読】 語や文のまとまりを考えながら、しっかりとした声で音読している。
	3	○おおまかな文章構成をつかむ。 ○学習の計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10の形式段落で文章ができていることを把握させる。</li> <li>・「話題提示」をおさえ、出てくる生き物に着目させながら、4つのまとまりに分けさせる。</li> </ul>	【読】 出てくる生き物に着目しながら、4つの大きなまとまりに分け本文を読み通す視点をつかんでいる。
第 二 次	4	○イソギンチャクとクマノミの体の仕組みや特徴を読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体の仕組みや特徴が書かれているところにサイドラインを引かせる。必要な言葉を落とさずにまとめさせる。</li> </ul>	【読】 体の仕組みや特徴を示してる言葉に注意しながら読んでいる。
	5	○イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かかわり合いが書かれているところにサイドラインを引かせる。</li> <li>・必要な言葉を落とさずにまとめさせる。</li> </ul>	【読】 かかわり合っている様子を、互いに役に立っていることを考えながら読み取っている。
	6 本 時	○ホンソメワケベラの体の特徴や、大きな魚とのかかわり合いを読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホンソメワケベラの体の特徴や大きな魚とのかかわり合いが書かれている文にサイドラインを引かせる。必要な言葉をおとさずにまとめさせる。</li> </ul>	【読】 かかわり合っている生き物の特徴を知り、互いに役に立っていることを考えながら読んでいる。
	7	○海の生きものについてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海の生きものたちがどのようにかかわり合っているのか、読み取ったことを説明したり、動作化したりして確認させる。</li> </ul>	【読】 かかわり合っていることが分かるように、説明したり動作化したりしている。
第 三 次	8	○「すみれとあり」を用いて読み取る練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事柄の順序に沿って、自分で正しく読み取る力を身につけさせる。</li> </ul>	【読】 問われている言語に着目して読み取っている。
第 四 次	9	○海の生き物についての本を読む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書に出てきた生き物をさらに詳しく調べたり、他の生き物を調べたりさせる。</li> </ul>	【関】 自分の知らない世界に興味を持って本を読んでいる。
	10 ・ 11	○読み取ったことを絵と文で「生きものカード」にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生き物の名前、特徴、生き物の秘密など初めて知ったことや、なるほどと思ったことなどを「生きものカード」に書きながら作業を進めさせる。</li> </ul>	【書】 生き物について本で調べ、分かったことを「生きものカード」にまとめている。
	12	○書いた文章を読み合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の文章のよさを見つけながら読ませる。</li> </ul>	【読】 友達の文章のよいところを見つけながら読んでいる。

5 教材構造図

まとめ	事例二				事例一			話題提示		段落構成		
	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②		①	段落形式
かわり合いの生きものたちのか	わがいのっしょに	ホソメワケベラ	大きな魚が食べない	ホソメワケベラ	いっしょに	クマノミがいっしょ		クマノミ	問いとよびかけ	役に立つようにくらす生きものたち	小見出し	
このように、サンゴの海では、	た虫は食べものになる。	ホソメワケベラがそうじし	大きな魚がホソメワケベラにそうじをしてもらう。	ホソメワケベラの特徴	守ってもらう。	クマノミがいっしょに守ってもらう。		イソギンチャクとクマノミの体の仕組み	生きものたちのかわり合いを	サンゴの海には、互いに役に立つようにかかわり合っているものがいる。	段落の要点	
・このように	・食べものになるのです。	・知っているからです。	・その一つ	・この魚	・まもり合って	・だからです。	・おかわれて	・これが	・しよく手	・くでしようか。	・サンゴの海	着目させたい言語

段落構成図



つもるのたラて互ンも合役  
 ての虫。虫ははいにのちのにつに  
 暮らサがを大るににヤたつて立  
 していちサン食そき守クとがらよう  
 る。たゴの物じ魚のソ合マノ。に  
 互いの海にする体メワくミイはは、  
 助はつがににつケらハソソギ  
 け生て、いそい  
 合きい

6 本時の指導

(1) 目標

くり返しの言葉や理由を表す文末表現に着目しながら、ホンソメワケベラと大きな魚とのかかわり合いについて読み取ることができる。

(2) 指導の構想

本時は、ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いについて読み取る学習である。説明の中でくり返し出てくる「そうじ」という言葉に着目させ、説明の中心的な事柄を読み取ることができるようにさせたい。また、「でも、～ません。」という文からその理由を考え、理由を表す文末表現に着目させながら、互いに役に立っていることを読み取ることができるようにさせたい。

(3) 展開

段階	学習活動	教師の支援	評価
つかむ 5分	1 前時の学習を想起する。 2 本時の学習課題を確認する。 ホンソメワケベラと大きな魚は、どんなかかわり合いをしているのでしょうか。 ・学習場面を音読する。 ⑦～⑨段落	・前時の掲示を見ながら、イソギンチャクとクマノミが互いに守り合っていたことを確認する。 ・「かかわり合い」を調べるために読むことを意識させて音読させる。	
ふかめる 35分	3 学習場面を読み取る。 (1)ホンソメワケベラの特徴を読み取る。 ・ホンソメワケベラがどんな魚かわかる言葉はどれですか。 (2)ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いについて読み取る。 ・ホンソメワケベラが役に立っていることが書いているところはどこですか。 ・大きな魚が役に立っていることが書いているところはどこですか。 ・どうして、ホンソメワケベ	・サイドラインを引かせ、リボンマークを書かせる。 ・「青色」「黒いすじ」「十二センチメートル」の言葉に着目させる。 ・写真と照らし合わせる。 ・ホンソメワケベラは赤、大きな魚は青でサイドラインを引かせる。 ・「そうじ」という言葉に着目させ互いに役に立っているという視点で読み取らせる。 ・引いた根拠を明らかにさせ、全体で話し合わせる。 ・文末の「～からです。」に着目さ	◎ホンソメワケベラの特徴を表している言葉を見つけることができる。(教科書のサイドライン) ◎「きれいにそうじをしてくれる」という言葉に着目して見つけることができる。(教科書のサイドライン) ◎そうじをしてとった虫が、食べものになることが書いてある言葉や文を見つけることができる。(教科書のサイ ○文末の「～からです。」

	<p>ラは大きな魚に「食べられることはありません。」と書いているのでしよう。</p> <p>・ どうして、「ただ、そうじをしているではありません。」と書いているのでしよう。</p> <p>4 ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いをワークシートにまとめる。</p>	<p>せて理由を明らかにさせる。</p> <p>・ 文末「のです。」に着目させ、大きな魚の掃除をすることで食べ物を得ることができることを確認する。</p> <p>・ イソギンチャクとクマノミのかかわり合いのまとめ方と同じようにまとめさせる。</p>	<p>に着目して理由を読み取っている。(発言)</p> <p>○文末の「～のです。」に着目して理由を読み取っている。(発言)</p> <p>○学習したことをワークシートにまとめている。(ワークシート)</p>
まとめ 5分	<p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>6 次時の学習内容を知る。</p>	<p>・ 「ホンソメワケベラの特徴」「かかわり合い」という視点で役割読みをして学習場面の音読させる。</p> <p>・ 次時は、海の生きものたちのかかわり合いについてまとめの学習をすることを知らせる。</p>	

(4) 具体の評価規準

- A：ホンソメワケベラの特徴や大きな魚とのかかわり方について、自分の力で読み取っている。
- B：ホンソメワケベラの特徴や大きな魚とのかかわり方について、話し合いを通して見つけている。
- Cへの配慮：着目させたい言葉を手がかりに文をしっかり読ませ、ホンソメワケベラの特徴や大きな魚との関わり方について確認しながら見つけさせる。

(5) 板書計画

ホンソメワケベラ

えさをあげる

たすけ合っている

大きな魚

そうじをする

写真

明るい青色  
黒いすじ  
十二センチメートルほど

食べられることはありません。  
大きな魚たちは、  
きれいにそうじしてくれるのを知っているからです。

写真

ただ、そうじをしているわけではありません。

ホンソメワケベラにとつては、  
そうじをしてとつた虫が、  
食べものになるのです。

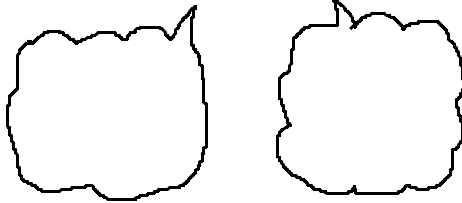
まとめ

サングの海の生きものたち

かだい

ホンソメワケベラと大きな魚は、  
どんなかかわり合いを  
しているのでしょうか。

もとかわたつお



(6) 学習の手引き

学習の進め方の手引き

	学習の順序	学習の仕方
1	だいまいを読む。	①だいまいを読み、何についての話をつかむ。 ②だいまいについて知っていることを話す。
2	全文を読む。	①すらすら読めるように音読練習をする。 ③分からない言葉にしるしをつけ意味を考える(調べる)。
3	文しょうを読んではじめの感想を発表する(書く)。	①文章や挿絵をもとに、初めて分かったこと、ふしぎに思ったこと、くわしく知りたいことなどを発表する(書く)。
4	学習のめあてを立てる。	①小さなまとまり(段落)に番号をつける。 ②大きなまとまりに分ける。 ③まとまりごとに、読みのめあてをたてる。
5	文しょうを読み進める。	①小さなまとまりごとに読む。 ②主語、述語をみつける。 ③生き物の体の「しくみ」や「特徴」、「かかわり合い」を見つけサイドラインを引く。 ・文末表現→「～からです。」「～のです。」に着目する。 ④指示語が指している言葉を見つめる。 「これ」が 「これ」で ・前に書いていることを矢印でむすぶ。  ⑤つなぎ言葉の前後の文の関係を考える。 ・「でも」からかかわり合うことができる理由をさがす。 ⑥大きなまとまりの内容をまとめる。
6	まとめの感想を発表する(書く)。	①学習して分かったこと、すごいと思ったこと、さらに知りたいと思ったことなどを発表する(書く)。
7	練習教材を読む。	①自分で問題を読み解く。
8	学習を生かして、自分で説明文を書く。	①関連する本を読む。 ②かかわり合う生き物を調べ、今までの学習を参考にして「生きものカード」を書く。
9	発表会をもち、友だちのよいところを見つける。	①自分の作文をみんなにしょうかいする。 ②お互いのよいところを見つけてほめ合う。

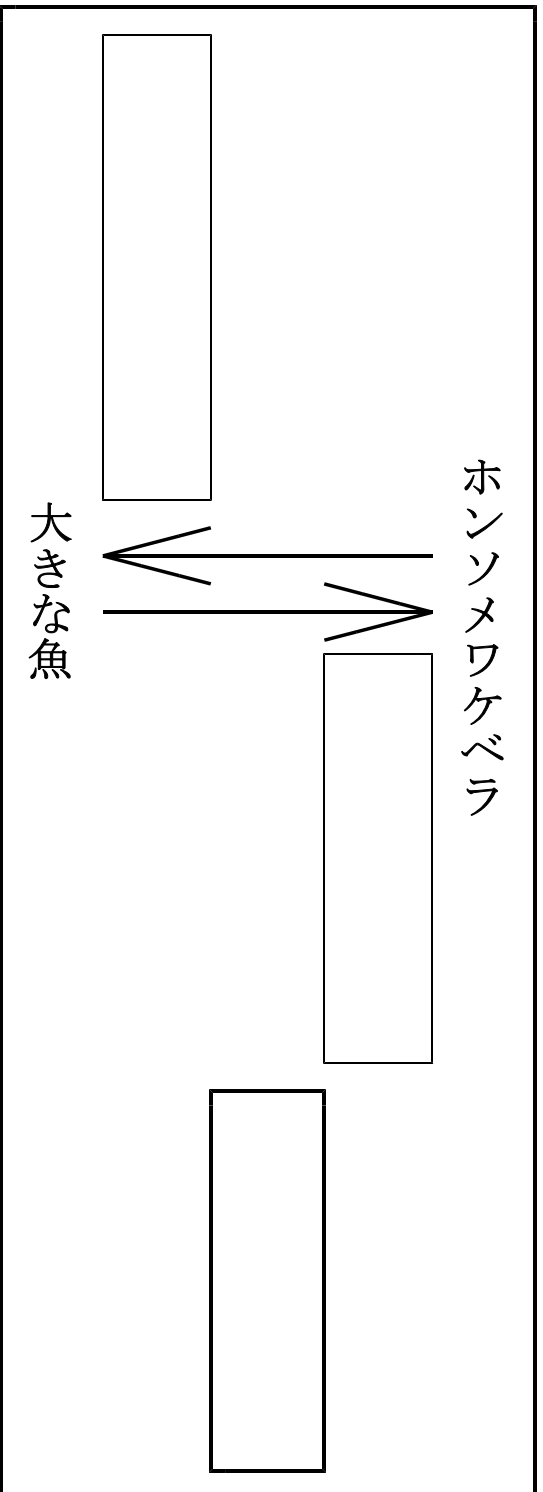
名まえ

かだい

ホンソメワケベラと大きな魚は、どんなかかわり合いをしているのでしょうか。

◎ホンソメワケベラと大きな魚は、どんなお話をしているのでしょうか。

まとめ



◎ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いについて感じたことを書きましょう。

★ふりかえり

サイドライン ( ) はつげん ( ) まとめ ( )



「サンゴの生きものたち海」よみとりの手びき

❶ 小さなまとまり（だんらく）にばんごうをつける。

◎ぎようのはじめが一字さがつてい<sup>じ</sup>るところをみつけましょう。  
ぜんぶで（ ）（だんらく）

❷ 文しようのくみたてを考える。

◎ぜんたいを大きな三つのまとまりに分けましょう。

『はじめ』・・・なにについてのせつめい文ですか。

『なか』・・・どんな生きものが書かれていますか。

『おわり』・・・まとめるときは、どんなことばをつかっていますか。

❸ なかみ（どんなことをせつめいしているか）を読む。

◎目をつけることばや文をみつけましょう。

①だimeiにかんけいするだimeiなことば

②文のしつぽのかたち。

? しつもん

どんなく

くしようか。

! こたえ

くです。

くます。

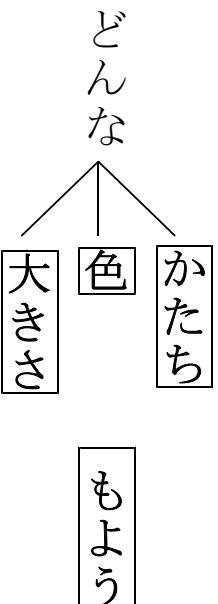
でも、くません。

★わけ

くのです。

くからです。

③いきもののとくちようをあらわすことば。



❹ こたえをまとめる。

◎しつもんにこたえるようにまとめましょう。

なにとなには、

どのよにして

かかわり合っている。